学校番号	112

令和８年度　社会科

教科	地理歴史科	科目	日本史探究	単位数	4 単位	年次	3 年次
使用教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）　日本史探究 詳説日本史 授業用 整理ノート（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「資料を読む・そして考える」学習を随時取り入れ、日本史学習への関心を高めます。原始･古代から戦後までの学習については、地理･公民･特別活動との連携や国際環境との関連を重視し、広い視野から多面的･多角的に歴史的事象を考察します。その際、「資料にふれる」や「主題を設定し探究する学習」を適宜取り入れます。また日本文化の学習については生活文化や民俗学の視点も踏まえ、特色と形成過程を総合的に考察します。

◇　板書やプリント等を併用して授業をします。

◇　教科書の他、副教材の図説や資料集も使用しますので、忘れずに持ってきて下さい。

通常の系統的学習の他、「歴史の考察」や「主題を設定し探究する学習」などではレポートの提出や発表を行う場合がありますので、自分の視点や考察した考えをまとめて表現できるよう念頭に置いて学習して下さい。

2　学習の到達目標

日本の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、日本の文化を伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、市民としての自覚を国際社会に主体的に生きる一員としての資質を養う。

＜知識及び技能＞

我が国の歴史の展開にかかわる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能を身に着けるようにする。

＜思考力、判断力、表現力等＞

我が国の歴史の展開にかかわる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。

＜学びに向かう力、人間性等＞

我が国の歴史の展開にかかわる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的にに理解し､その知識を身につけている。 日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し､有用な情報を選択し活用することを通じて歴史的事象を追究する方法を身につける。	我が国の歴史の展開から課題を見いだし、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的・多面的に考察し日本の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。	日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、市民としての自覚と、国際社会に生きる社会の一員として、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての責任を果たそうとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第一部　原始・古代	**第1章 日本文化のあけぼの** **1 文化のはじまり** 人類文化の発生を考え日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気付く。	a: 旧石器文化・縄文文化の成立を大陸との影響に着目してとらえることができたか。 b: 旧石器文化・縄文文化の社会について考察できたか。 c: 旧石器時代をはじめとした文化の始まりに興味・関心を持つことができたか。	定期考査	定期考査 レポート	レポート

		2 農耕社会の成立 大陸からの道具の流入や稲作の伝播などを踏まえて弥生文化の形成を理解する。 集落・墓の変容からも見られるように富の蓄積が開始される中、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて理解する。 **第 2 章 古墳と大和政権** **1 古墳文化の展開** 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 **2 飛鳥の朝廷** 推古朝を中心とする飛鳥朝廷の時代を理解する。	a: 小国の形成から小国の連合について、国内外の情勢を踏まえ資料を活用して多角的に考察できたか。 前方後円墳をはじめとする古墳やそれに伴う石室の形状や大きさなどの変容からヤマト政権成立までの過程を考察できたか。 b: 水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生社会に与えた影響を考察できたか。 c: 農耕社会の成立に興味を持つことができたか。		
		第 3 章 律令国家の形成 **1 律令国家の成立** 律令国家が成立するまでの政治の動向と土地や人々への統治の整備について理解する。 律令体制完成までの都の建設と古代文化の発展過程について理解する。 **2 平城京の時代** 律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 平城京における政治の動きについて、民衆への土地政策も含めて考察する。 **3 律令国家の文化** 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	a: 大宝律令による官僚制と税制の確立などによる律令体制整備を考察できたか。 盛唐文化の受容と、国史の編纂や仏教美術について考察できたか。 b: 飛鳥文化の形成について、仏教の受容や遣隋使・遣唐使などの大陸との交流を踏まえて考察できたか。政界における藤原氏の進出、初期荘園の誕生などを考察できたか。 c: 律令国家の形成について、興味を持って学ぶことができたか。		

		4 律令国家の変容 平安京前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や平安初期の政治改革、地方の変貌を踏まえて、律令体制の変質を理解する。 盛唐期の唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する				
2学期		**第4章 貴族政治の展開** **1 摂関政治** 藤原氏による摂関政治が地方における土地・人々との支配体制に及ぼした影響を理解させる。 **2 国風文化** 新しい貴族文化である藤原文化が、国風文化として大陸文化を消化した上に展開されていることを理解する。 **3 地方政治の展開と武士** 荘園整理令や国司の土地支配の進展に伴い、寄進地系荘園など荘園・公領の動きに変化があったことを理解する。 地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとって考察する。	a: 文献資料を活用し、国司の支配の変容と公領の変質が理解できたか。 武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことができたか。 b: 遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土信仰、国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化を理解できたか。 c: 摂関政治をはじめとする貴族政治などに興味を持ったか。 藤原北家の発展過程を理解し、摂関政治を考察できたか。	定期考査	定期考査 レポート	レポート
	第二部 中世	**第5章 院政と武士の躍進** **1 院政の始まり** 院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・社会を考察する。 **2 院政と平氏政権** 国際的な出来事や文化の動向、平氏による武家政権の形成過程を理解する。	a: 荘園公領制が明確化したことを踏まえて、院政の政治構造や社会を理解できたか。 源平争乱から幕府成立の過程、二元的支配などに着目できたか。 北条氏の台頭、執権政治の確立を確認できたか。 鎌倉新仏教の各史料を読解し、現代につながる信仰が誕生			

		第 6 章 武家政権の成立 **1 鎌倉幕府の成立** 本格的な武家政権としての鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な政権に成長していく過程を理解する。 **2 武士の社会** 公武関係に着目して、執権政治の確立にいたるまでの中、鎌倉幕府が公家政権よりも優位に立っていく過程を理解する。 武士の生活と地方支配を通じて、土地支配の実質的な支配権を地頭が掌握するようになっていった過程を考察する。 **3 モンゴル襲来と幕府の衰退** 蒙古襲来による政治・経済・文化への影響が幕府の衰退につながっていくことを理解する。 **4 鎌倉文化** 鎌倉新仏教の成立により庶民や武士の活動が活発化し、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。	したことを考察できたか。 b: 武家政権の成立を把握できたか。蒙古襲来の影響が幕府の衰退にどのように影響を及ぼしたかを考察できたか。 c: この時代の武士の影響が社会にどのような影響を与えたかについて興味を持てたか。 文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布などを取り上げ、考察できたか。		
		第 7 章 武家社会の成長 **1 室町幕府の成立** 南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて理解する。 **2 幕府の衰退と庶民の台頭** 土一揆・一向一揆などの発生と幕府の衰退を理解する。 **3 室町文化** 書院造・華道・茶道などの成立・発展を理解する。	a: 新武家政権の誕生を、旧政権と比較しその相違点を理解できたか さまざまな一揆と将軍権力の衰退などが対比的に理解できたか。 現代の日本文化の源流となる室町文化の意義が理解できたか。 b: 「下克上」をキーワードとして理解できたか。 c: 武家社会の成長に興味を持て		

		4 戦国大名の登場 守護大名と戦国大名を対比させ理解させる。	たか			
3学期	第三部 近世	**第8章 幕藩体制の確立** **1 織豊政権** 大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義について理解する。	a: 政策の流れを資料から読み解くことができたか。 初期外交から鎖国について考察できたか。 b: 鉄南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響について考察できたか。 検地や刀狩にみられる兵農分離策を踏まえて、織豊政権の統一過程とその政策を考察できたか。	定期考査	定期考査 レポート	レポート
		2 桃山文化 新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、考察する。	桃山文化と、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化に着目して考察できたか。 幕府と藩・朝廷・寺社との関係、封建的身分秩序の形成などを考察できたか。 c: ヨーロッパ世界と日本の接触について興味を持ったか。			
		第9章 幕藩体制の成立と展開 **1 幕藩体制の成立** 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立を多面的・多角的に理解する。 江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めて影響と歴史的意義について理解する。	a: 元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大など資料を活用しながら、考察できたか。 農村の家内工業から近代工業の芽生えが始まったことについて理解できたか。 b: 文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程を考察できたか。 農業生産の進展、産業の発達と多様化、商品経済・流通の発達、三都の発達に見える都市の経済を考察できたか。			
		2 幕藩社会の構造 幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	c: 元禄文化について、町人の経			

		3 幕政の安定 17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期についてその平和と秩序確立の視点で考察する。	済的繁栄や商業活動の拡大など資料を活用しながら、考察できたか。			
		4 経済の発展 幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて理解する。				
		5 元禄文化 経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。				
		第 10 章 幕藩体制の動揺 **1 幕政の改革** 農村や都市が変化して幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が対処した諸改革についての特徴を理解する。	a: 農村の家内工業から近代工業の芽生えが始まったことについて理解できたか。 b: 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに着目して、享保の改革・田沼時代・寛政の改革を中心に考察できたか。 列強の接近に伴う諸事件による鎖国政策への批判や失政を踏まえて、幕府の衰退をみることができたか。 諸藩の財政・軍事再建から雄藩が出現する過程を考察できたか。 幕藩体制に批判的な化政文学、洋学・国学など新たな学問・思想、寺子屋などの庶民教育機関の普及、浮世絵に象徴される出版文化の発達などに着目して考察することができたか。 c: 幕藩体制が動揺する中、幕府			
		2 宝暦・天明期の文化 江戸中期に確立した洋学や国学、新たな形で展開する文学・芸能・美術について社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連付けて考察する。				
		3 幕府の衰退 欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、地方からの視点を踏まえて理解する。				

		4 化政文化 化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	や諸藩が対処した諸改革について関心を持ったか。			
	第十一章　近代国家の成立	**第 11 章　近代国家の成立** **1 開国と幕末の動乱** 開国から明治維新に至るまでの過程について、国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目する。 **2 幕府の滅亡と新政府の発足** 天皇中心の統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでを理解する。	a:近代国家の成立に関心をもって学習に取り組むことができたか: a:日米和親条約・日米修好通商条約の締結、幕末の政局の転換を理解できたか。 b: 天皇中心の統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡に至るまでを理解できたか			
	第十二章　近代国家の成立	**1 明治維新と富国強兵** 明治新政府の諸制度の改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を理解する。 欧米の文化・思想の影響により日本を欧米諸国と同等の位置へ引き上げようとする一連の近代化政策がとられ、それが日本人の近代への覚醒をもたらせたことを理解する。	a:明治維新の意義を理解できたか。 b:廃藩置県・四民平等・地租改正・殖産興業政策など、強力な中央集権体制を構築していく過程を考察できたか。 c:欧米文化の導入による文明開化とアジア政策などを資料から読み解くことができたか a:欧米文化の導入による文明開化とアジア政策など、多面的・多角的にとらえることができたか。			

		２ 立憲国家の成立 政府の強力な中央集権体制の志向の中、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 欧米諸国と対等の地位に立つために国家的課題であった不平等条約の改正を行い、東アジアへの進出により欧米列強への仲間入りを目指した経過について考察する。	a:日本が近代国家として国際的地位を確立するため、条約改正やそれに伴う諸法典の整備など国内体制の確立を図り、朝鮮問題を機とする日清戦争により欧米に近付こうとした点について理解できたか。			
	第十三章　近代国家の展開	**１日清・日露戦争と国際関係** 日露戦争の勝利による欧米列強の仲間入りの経緯とその後の植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連付けて考察する。 **２第一次世界大戦と日本** 立憲体制成立後から第一次世界大戦にいたるまでの国内政治の動きを、政党と藩閥の抗争などの視点から理解する。 第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて理解する。	b:立憲政友会の成立から桂園時代に至る過程について、考察できたか。 a:第一次護憲運動による大正政変以降、政党勢力が国民統合の中心的役割を果たしていく過程を理解できたか b:国際環境の推移に着目し、第一次世界大戦を考察できたか。 a:大戦景気に着目して考察できたか。 b:デモクラシー思想について考察できたか。 a:ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過に着目できたか。 a:様々な社会運動に目を向け、普選運動・護憲三派内閣の成立・治安維持法の成立などに着目できたか b:政党政治を考察できたか			

		３ワシントン体制 ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について理解する。				
	第十四章　近代の産業と生活	**１近代産業の発展** 日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を考察する。 近代産業の発展に伴う社会問題・労働問題の発生や、国民生活の向上について考察する **２近代文化の発達** 伝統的な文化のうえに欧米文化を取り入れた国民的な性格を持って成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって理解する。 **３市民文化の変容と大衆文化** 労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、市民文化の特色について理解する。	c:繊維・軍需産業の発展、重工業の形成など資本主義の確立過程を総合的に理解できたか a:繊維・軍需産業の発展、重工業の形成など資本主義の確立過程を総合的に理解できたか a:寄生地主制の進展、社会運動の発生、大逆事件などに着目できたか c:出版・交通・通信などの面で生活様式が近代化した身近な例を見つけられたか。 b:欧米文化の浸透度、社会風潮との関連付について考察できたか。			

	第十五章　恐慌と第二次世界大戦	**１恐慌の時代** 戦後恐慌・昭和恐慌に至る国内外の状況について、経済対策はもとより政治・経済の動揺にも着目して理解する。 社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折について考察する。	a:戦後恐慌・関東大震災・金融恐慌・金解禁・世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌などについて理解できたか。 b:協調外交から山東出兵などの積極外交へと転換していく過程を考察できたか。			
		２軍部の台頭 日本の対外政策の推移と、世界情勢や軍部の政治的進出の拡大による政党内閣の崩壊過程を考察する。 恐慌から脱出し、ナショナリズムが高揚するなか、ますます軍部の影響力が増大していく過程を考察する。	a:満州事変から国際連盟の脱退に至る日本の対外政策について、関心を持って学ぶことができたか b:五・一五事件、二・二六事件以降の大軍拡への過程を考察できたか。 b:中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの性格を考察できたか。			
		３第二次世界大戦 日中戦争勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。	c:中国の動向など国際関係の変化、日中戦争・第二次世界大戦・太平洋戦争それぞれの違いを資料から読み解くことができたか			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度